



昨年は原油価格の高騰と円安の影響を大きく受けた。業界の中では比較的早く合材価格の引き上げに動いたが、製造原価が販売価格を上回り、値上げをしても追いつかな

前田道路 今泉 保彦社長

脱炭素技術への投資増額

い。値上げで顧客が離れてしまった面もある。顧客を取り戻すため品質を高めたり、サービスを充実させたりと取り組んでいる。

2023年3月期は早めに値上げしたこともあり、現在の状況が続けば業績は好転するとみている。だが、23年度は建設業に残業時間の上限規制が適用される「2024年問題」が懸念される。売上高

や受注高の増加よりも、生産性を高めて利益を伸ばす方向を目指したい。

工事部門は「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」もあり、官庁工事の比率を高める。もともと民間中心の当社が官庁工事の入札に参入することは厳しいが、技術提案や見積もりなどが、技術提案のノウハウがある前田建設と協力している。前

田建設とのJVで応札するケースも増えており、ホールディングスのシナジー（相乗効果）が出てきている。

カーボンニュートラルに向けては、住之江合材工場（大阪市）を開設し、排出する二酸化炭素（CO₂）を実質ゼロにした。CO₂排出量を低減できるフォームドアスファルトの製造販売装置は全国44カ所の工場に設置している。脱炭素関連の技術開発は、開発投資予算を増額して取り組んでいく。

